

丹毒菌 殺菌試験結果の概要

*** 殺菌効果とは、除菌(殺菌)剤が対象微生物にダメージを与えて発育(増殖)を阻害することです。***

[試験機関] (株)食環境衛生研究所

[試験資材] オキシリンク-S P

(1,000・3,000・5,000・10,000・50,000・100,000・200,000倍希釈)

≡ オキシリンクSPスプレー に換算した場合の濃度：

(60%・20%・12%・6%・1.2%・0.6%・0.3%)

[試験対象] 豚丹毒菌(マリエンフェルド株)：1,200,000株/ml (株 = 個数)

[試験内容] 試験対象が、試験資材との混濁において発育が検知されたか否かを計測。

①：開始後30秒、②：開始後300秒(5分)、③：開始後1,800秒(30分)

*** それぞれの希釈倍率(濃度)での有効性を判定 ***

[試験開始] 2013.01.07

[試験終了] 2013.02.20 (試験機関による報告書作成日)

*** 菌やウイルスの死滅表現：菌 → “死滅”、ウイルス → “不活化” ***

【試験区分】

- ① 30秒後の計測
- ② 300秒後の計測
- ③ 1,800秒後の計測

上記①～③の試験区分で、それぞれの希釈倍率(濃度)での「菌の発育の有無」を計測し、殺菌効果の有効性を判定。

[所見] まず、オキシリンクSPスプレーは本来は薄めずに(100%のまま)使用するものです。そして、これらの試験は定められた条件のもと試験対象微生物(菌)が発育(増殖)しているか否かを測定することで、殺菌効果の有効性を判定するものです。この試験により、対応の濃度で使用する事が、効果的な除菌対策に通じるということが示されました。

*** 測定は、それぞれの試験で2回行なう。***

*** 「—」は、発育なしを意味する。***

*** 「—/—」は、2回とも「発育なし」の場合。***

試験区分	試験資材	試験開始後(下記時間)の計測時間における対象微生物の「発育」の有無		
	オキシリンクSP(原液)の希釈倍率 SPスプレーに換算した場合の濃度	30秒後	300秒(5分)後	1,800秒(30分)後
濃度と有効領域の相関(「発育なし」が有効)	1,000倍希釈 60.0%	—/— 発育なし	—/— 発育なし	—/— 発育なし
	3,000倍希釈 20.0%	—/— 発育なし	—/— 発育なし	—/— 発育なし
	5,000倍希釈 12.0%	—/— 発育なし	—/— 発育なし	—/— 発育なし
	10,000倍希釈 6.0%	—/— 発育なし	—/— 発育なし	—/— 発育なし
	50,000倍希釈 1.2%	発育あり	—/— 発育なし	—/— 発育なし
	100,000倍希釈 0.6%	発育あり	発育あり	—/— 発育なし
	200,000倍希釈 0.3%	発育あり	発育あり	発育あり